

令和7年度松前町地域公共交通活性化協議会 会議録

1 開催日時	令和8年2月9日（月） 10時00分～10時55分
2 開催場所	松前町役場 3階 大会議室
3 出席者	<p>【会長】 田中町長</p> <p>【委員（敬称略）】 中川智之（代理出席）、大谷清（代理出席）、松下貴義、松本真一、谷口政賀津、鶴田佑介、森貴洋、篠原英樹、山本美恵子、佐川功二、高橋収一、茂川俊英、山本祐三、大政邦弘</p> <p>【事務局（財政課）】 中村明博課長、中嶋元喜主任、鎌田あゆみ主事</p>
4 議事	<p>(1) デマンドタクシーについて</p> <p>(2) コミュニティバス再編について</p>
5 会議の公開	公開
6 傍聴人数	3名
7 議事内容	
(発言者) 会長	1 開会 会長挨拶
事務局（中村）	2 会議の公開、非公開等について 会議は公開とする報告を行い、過半数を超える委員が出席していることから、会議は成立することを報告
事務局（鎌田）	3 議事 (1) デマンドタクシーについて 【説明の概要】 ・実証運行の結果（報告事項） ・本格運行について（協議事項） 資料1をもとに説明
会長	事務局の説明が終わりました。これから、質疑に入ります。質問のある方は、挙手をお願いします。
会長	まず私から一言申し上げます。

	<p>今回の実証運行にあたり、活性化協議会の皆さまをはじめ、みきゃんアプリでは伊予鉄株式会社の皆さま、松前交通タクシーの皆さまには本当にお世話になりました。</p> <p>初めての試みでしたので、手探りで始めた部分もありましたが、実施した結果として、先ほど事務局から説明がありましたアンケート結果にもあるように、「続けてほしい」という声が多数ありました。</p> <p>課題としては認知度であると感じております。ここをいかに広げていくかが重要であり、他地域のデマンド交通やライドシェアの事例、利用実績を見ましても、利用者は高齢者が多く、浸透させていくには、現時点ではアナログな手法が最も効果的であり、一定の時間も必要ではないかと考えております。地道に周知活動を続け、来年度の本格運行では利用実績の向上につなげていければと思っております。</p> <p>また、個人的な効果として、さまざまな成果も見えてきたと感じております。病院や買い物での利用は想定しておりましたが、元気人村で介護体操に参加することで新たなコミュニティが生まれ、健康づくりにもつながる取組になったのではないかと思います。</p> <p>さらに、地域の飲食店等にクーポン協賛をいただくことで、地域活性化につながる側面もあったと感じております。子どもの送迎にも利用したいという若い世代の声もありましたので、財団の助成が採択されれば、そうしたニーズに応えられる時間帯でのデマンドタクシー運行も検討していければと考えております。</p> <p>その他皆様からご意見をお願いします。</p>
<p>茂川委員</p>	<p>行きは予約できると思いますが、帰りも予約できるのでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>帰りの時間があらかじめ分かっているならば、往復ともに予約が可能です。</p>

<p>茂川委員</p>	<p>降りた場所で待っててもらえるのでしょうか。例えば、行きに予約して、用事が5分ほどで済む場合、その場で待っててもらえることは可能でしょうか。</p>
<p>事務局（鎌田）</p>	<p>帰りの便を予約していない場合に、短時間で用事が済むからといってその場で待機することはできません。予約時に帰りのお時間もお伝えいただき、帰りの分も前日までにあらかじめご予約いただく必要があります。</p>
<p>会長</p>	<p>行きも帰りも予約できるということをご存じない方も多いと思いますので、本格運行時にはその点の周知も必要になります。</p>
<p>中川委員</p>	<p>みきゃんアプリについてですが、高齢者の方にアプリ予約を浸透させるにはどこの地域でも時間と手間がかかり苦戦していると聞いています。70代・80代の方には、アプリに対して抵抗感があるという話をよく耳にします。</p> <p>デマンドタクシーは相乗り・乗り合いを行うことで運賃を抑えられていますが、現在の利用状況を見ると、まだ単独乗車が多い状況です。乗り合いを増やしていかなければ、松前町の負担費用や補填費用が増え、持続可能な事業とすることが難しくなると思います。</p> <p>予約の効率化という観点からも、アプリ利用の啓発が重要です。各地域に出向き、継続的にその場で見せて使い方をお伝えするような取組を行わなければ、ホームページやチラシをご覧くださいというだけでは、高齢者の方にはなかなか浸透しないと感じています。実際に操作を一緒に行う草の根的な活動を続けていただきたいと思います。</p> <p>また、サービス自体の周知を進め、乗り合いが増えていけば、より持続可能な交通手段になっていくと考えます。開始当初にどれだけ普及を図れるかが重要です。説明の機会などについては、私どもも協力いたしますので、準備を進めていただければと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。高齢層については、私の母も 80 代ですが、LINE ですらなかなか覚えられず苦戦しております。まさに草の根活動で、一度一緒に操作しないとなかなか理解が進まないと感じています。</p> <p>得意な方はどんどん使いますが、とっつきにくいと感じている方にも「便利だ」と思っただけのような働きかけを、役場としてもしっかり行ってほしいと思います。</p> <p>松前交通タクシーさん、実際に運行してみてもいかがでしょうか。持続可能性や料金体系など、ご意見をお願いします。</p>
<p>鶴田委員</p>	<p>実証実験に関わっていただいた皆さま、本当にありがとうございました。</p> <p>運行主体の立場から申し上げますと、社内でも意見がありましたが、管理工程が非常に多いことが課題でした。地方ではまだ電話予約が主流であり、電話番号を専任で置くことができず、オペレーターが一般タクシーの電話対応とデマンドタクシーの予約対応を兼務している状況でした。</p> <p>前日 17 時から 19 時に予約確定の連絡を電話で行っておりますが、その時間帯は通常業務も非常に混み合っており、オペレーターの負担が大きくなっていました。</p> <p>また、アプリ予約では、利用者ご本人ではなく、娘さんや息子さんなど遠方のご家族が予約されるケースがあります。その際、予約場所を誤って入力されることがありました。前日に電話で時間や場所を確認していても、当日乗車場所にご本人がいないケースがあり、連絡しても電話に出るのは娘さんや息子さんで、現場の状況が分からず、次のお客様にご迷惑をおかけすることもありました。</p> <p>費用面については、デマンドタクシーを広く周知し、多くの方に利用していただくことは大変望ましいことですが、収支の面では、400 円の運賃で利用者が増えても限界があるのが正直なところでは、現在はオペレーターを兼務することでコストを</p>

	<p>抑えていますが、専任を配置すればその分コストが増え、松前町や国・県の財源に頼らざるを得なくなります。</p> <p>そのため、新たな収支モデルを模索する必要があります。デジタルサイネージや車両ラッピング協賛など、新たな収益確保に向けた取組が必要です。実際に6月から本格運行となった場合、車内で動画を放映し、企業から広告収入を得る取組を予定しております。現在3～4社から動画掲載のご意向をいただいております。その広告収入をデマンドタクシーの収益の一部とする流れができつつあります。</p> <p>さまざまな課題はありましたが、特に管理工程の多さが大きな課題であると感じております。</p>
<p>会長</p>	<p>率直なご意見をありがとうございました。管理工程やマンパワーの問題が増えている点については、事務局とも打開策を検討してまいります。現在、既存の松前交通タクシーのオペレーターの皆さまに負担が集中している状況ですので、人件費の負担が松前交通タクシー側に偏らないような仕組みを検討していきたいと思っております。</p> <p>400円という運賃については、収支が合わないことは承知しておりますので、公共性の高い公共福祉的な位置づけとして、公費を投入しながら持続していくモデルになると考えております。</p> <p>一方で、発着地点としてよく利用される施設や店舗の方々にはスポンサーとしてご協力いただくなど、資金面でのバックアップを得ることができれば、税負担の軽減にもつながるのではないかと考えております。</p>
<p>事務局（中村）</p>	<p>1点、事務局からお伺いします。資料24ページの実施主体を「松前町」としてありますが、先ほど協議にありました運行事業者の負担や町の負担にも関係してくる点です。</p> <p>現段階では町を実施主体としておりますが、補助という形をとり、運行事業者を実施主体とする場合、道路運送法第4条の許可申請にあたり注意すべき点があればご教示いただきたいと思います。</p>

<p>山本委員</p>	<p>松前交通タクシー様において道路運送法第4条の許可を取得していただくこととなります。補助という形をとる場合は、松前町が補助申請を行い、運行は松前交通タクシーが担う形になるかと思えます。こういった補助金を活用するかにもよりますが、共創分野の補助金でしたら協議会になりますし、他の補助金でしたら変わってくると思うので、こういった補助金を活用するかなど、前広にご相談いただけたらと思います。</p>
<p>事務局（中村）</p>	<p>先ほどのお話につきまして、1点補足させていただきます。私から説明した「補助」とは、町から運行事業者へ費用補填という形で行うものであり、国・県・民間企業の補助事業を活用するものではない、というものでございます。</p>
<p>会長</p>	<p>その他質疑等ございませんでしょうか。</p> <p>質疑がないようでしたら、議題1 デマンドタクシーについて、事務局案のとおりご承認いただけましょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">(拍手多数)</p> <p>ありがとうございます。拍手多数ですので、松前町地域公共交通活性化協議会規約第6条第6項の規定により、本件は承認されました。</p> <p>続きまして、「コミュニティバス再編について」について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局（中嶋）</p>	<p>議事</p> <p>(2) コミュニティバス再編について</p> <p>【説明の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわりバスについて</li> <li>・公共交通のシステム関連の検討事項</li> </ul>

	<p>・令和8年度を取組案 資料1をもとに説明</p>
会長	<p>事務局の説明が終わりました。これから、質疑に入ります。 質問のある方は、挙手をお願いします。</p>
茂川委員	<p>民生委員も務めておりますので、高齢者の方とお話しする機会も多くあります。その中で、「自宅からバス停まで距離があるため、利用したくても利用できない」というお声を伺っております。バス停まで距離がある地域もありますので、再編ルートを検討する際には、地区の内部を通るルートについてもご検討いただきたいと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。現在は車両の大きさの関係で幹線道路のみの運行となっておりますが、今後は車両の規格の見直しや台数の増加も含めて検討してまいります。</p> <p>交通空白をなくすことを目的として、デマンドタクシーの導入とコミュニティバスの再編の両面から取組、皆さまがより外出しやすく、利便性が向上する交通体系を目指してまいります。</p> <p>その他ございませんでしょうか。 中予・県内の取組などいかがでしょうか。</p>
佐川委員	<p>デマンドタクシーの実証運行期間中に、ひまわりバスの利用者数が大幅に増加したことに驚いております。それが松前町の「乗って、出かけて、元気になる」ということにつながっているのだと感じました。</p> <p>また、コミュニティバス路線の再編・拡充は非常に意義のある取組だと思いますし、それに伴い利用者が増えれば、デマンドタクシーの利用者も増加する可能性があります。</p> <p>その際には、先ほどの管理の効率化やオペレーターの課題についても、円滑に解決していただきたいと思っております。利用したいときに利用できない状況があると、初期の利用者が離れてし</p>

	<p>もう恐れがありますので、関係者が連携しながら課題解決を図り、着実に進めていただければと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。 その他質疑等ございませんでしょうか。</p> <p>質疑がないようでしたら、議題2のコミュニティバス再編について、事務局案のとおりご承認いただけますでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。</p> <p>(拍手多数)</p> <p>ありがとうございます。拍手多数ですので、松前町地域公共交通活性化協議会規約第6条第6項の規定により、本件は承認されました。</p> <p>それでは、本日の議事は、全て終了いたしました。</p> <p>今回の活性化協議会もそうですが、デマンドタクシーやバスは、いずれも目的を達成するための手段にすぎないと考えております。こうして皆さまにお集まりいただき、試行錯誤を重ねる中で、さまざまな課題やエラーも生じてくるかと思えます。しかし、PDCA サイクルよりもさらに速いスピード感を持って、小さなインシデントも踏まえながら改善を積み重ねていくことが重要だと考えております。</p> <p>私たちの目的は、さまざまな方々が抱える課題を「希望」に変えていくことです。「乗って、出かけて、元気になる。多世代に配慮した持続可能な公共交通でつくる松前町へ」。ここが、活性化協議会として目指す大きなゴールであると考えております。その実現に向けて、デマンドタクシーやコミュニティバス、さらにはライドシェアへの移行など、多くの選択肢について検討していく必要があります。</p> <p>できる限りすべての方にとって使いやすい交通体系を、例えば、高齢者の方の通院や買い物の足として、また核家族化や共働き世帯の増加を踏まえ、塾や習い事の送迎手段として、さら</p>

	<p>に、元気人村の温泉などに出かけ、交流を深めることが健康づくりにつながり、買い物や消費活動を通じて地域経済の活性化にも波及していく。そのような好循環を生み出す公共交通インフラへと発展させていければと考えております。</p> <p>皆様の本会議でのご協力に心から感謝を申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、一言御礼に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局（中村）	<p>皆様どうもありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和7年度第3回松前町地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。</p>